

令和7年度  
沖縄振興特別推進交付金

**中南部都市圏駐留軍用地跡地利用  
及び周辺整備検討調査業務委託  
報告書(概要版)**

**令和8年3月**

**沖 縄 県**

## I. 目的

嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の返還が予定されている関係6市町村では、跡地利用に向けた取組が進められているが、返還時期がそれぞれ異なり、取組の熟度も異なっている。また、「広域構想」の策定から10年が経過しており、社会動向の変化や周辺開発の動向等も視野に入れた実現に向けた取組が必要となっている。

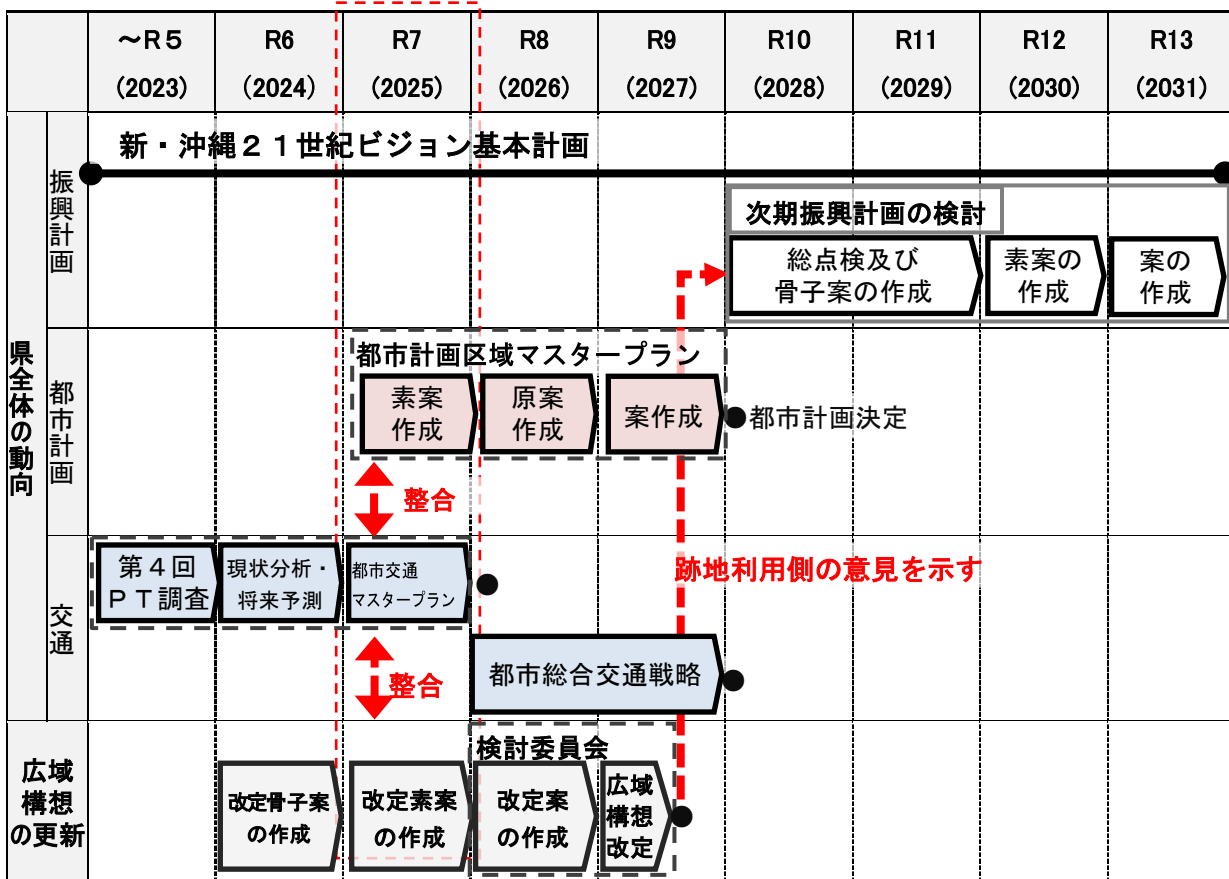
以上のことから、本業務では、返還及び今後返還が予定されている嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の跡地利用に向けた取組状況の整理、また上位計画・関連計画や社会動向の変化等を踏まえた「広域構想」における課題整理と跡地利用の方向性についての検討を行うとともに、「広域構想」の更新に向けた改定素案の作成を行うことを目的とする。

## II. 南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想改定（素案）の作成

### 1. 広域構想の更新に向けた検討

#### (1) 「広域構想」改定のスケジュール・改定手順

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」において大規模駐留軍用地は跡地の有効利用による県土構造の再編が位置づけられていることから、「都市計画区域マスタープラン」や「都市交通マスタープラン」及び「都市総合交通戦略」等と足並みを揃えて整合を図るとともに、「次期振興計画」へ跡地利用側の意見を示すため、令和9年度の「広域構想」改定を目標とし、令和8年度までに「広域構想」の改定案の作成を行う必要がある。



#### (2) 広域構想の構成の検討

「広域構想」をより理解しやすいものとするため、構成変更の検討を行った。今回の改定にあたっては、「広域構想」の目的や県全体の方針から「広域構想」の方向性を示し、基本方針、各跡地の方向性や基本整備方針へと反映させていく構成として整理した。

### (3) 広域構想の更新に向けた検討

#### 1) 公園・緑地の整備基本方針に係る検討

##### ① 有識者ヒアリング

今年度は、広義に捉えたみどりの考え方の妥当性の確認や公園・緑地面積の確保に向けた方策の検討を行うため、有識者ヒアリングを実施した。

| 有識者              | 日時   |
|------------------|--|
| 池田孝之先生（琉球大学名誉教授） | 令和7年9月19日（金）10：00～11：30  |
| 実施内容             | 1. 広域構想における公園・緑地面積の規模<br>2. 「広義に捉えたみどりの考え方」に対する意見<br>3. 広域的な視点から、各跡地利用の緑地整備に対する留意点 |

##### ② 各跡地におけるみどりの役割の検討

各跡地の「自然環境（公園・緑地）」整備基本方針の検討にあたっては、跡地周辺を含む広域的な視点を踏まえる必要があるため、各跡地の立地特性やみどりに関する既存データ等の整理を行ったうえで、各跡地において期待されるみどりの機能・役割についてグリーンインフラの視点から整理を行う。

| 【既存情報の整理】         |   |
|-------------------|---|
| ①立地特性             | ②周辺を含むみどりの分布状況                            |
| ③津波浸水想定区域・避難施設の状況 | ④既存都市公園の誘致圏                               |
| 【期待されるみどりの機能・役割】  |   |
| 分類                | 求められる機能の例                                 |
| 環境面               | 環境共生社会<br>ヒートアイランド現象緩和／生物多様性の確保／大気・水質浄化 等 |
| 社会面               | 安心安全の確保<br>水害・津波被害の軽減／避難地・復旧活動拠点／延焼防止 等   |
|                   | 健康・福祉の向上<br>健康運動の場／遊び場、子育て支援／ストレス軽減 等     |
|                   | 地域コミュニティの醸成<br>地域活動の場／郷土愛の醸成 等            |
| 経済面               | 経済・活力の維持<br>良好な環境・景観形成／都市農業の振興／観光振興       |

#### 2) 土地利用・計画人口の更新

現在の「広域構想」の土地利用面積の試算については、公園・緑地以外は目標値を記載したのではなく、公園・緑地を一定程度確保する場合の土地利用面積の目安として掲載している。また、計画人口についても土地利用の目安に基づき住宅面積から算出した概ねの計画人口として示されている。改定素案では、次の考え方に基づいて土地利用及び計画人口を更新した。

#### 3) 各返還駐留軍用地の整備基本方針の検討にかかる基本的な考え方

- ・キャンプ瑞慶覧の対象範囲が限定的となり、小規模な跡地が増加
- ・地区によって進捗状況が大きく異なる（返還済みの地区、跡地利用計画策定済みの地区・検討中の地区・未着手の地区等）

##### ① 各跡地の整備基本方針の検討にかかる視点

- i. 広域的視点からの各跡地の役割・連携等
- ii. 各跡地の特性や意向、構想・計画等への配慮

## 2. 広域構想の更新に向けた改定素案の作成

現行の「広域構想」及び昨年度作成の「広域構想改定骨子案」をもとに、第Ⅱ章第1節（広域構想の更新に向けた検討）及び第Ⅲ章（関連部局や関係市町村へ調査・ヒアリング・計画反映）を踏まえ、「広域構想改定素案」を作成した。

「広域構想改定素案」については、一部関係市町村への確認を経て、令和8年度の委員会で審議を図るものとする。

### Ⅲ. 関連部局の調査・計画反映

#### 1. 庁内関係部署ヒアリングの実施

##### (1) 広域交通インフラ、広域的公園・緑地に係るヒアリング

庁内関係部署に対して、広域構想の見直しに関連する内容について、ヒアリング調査を実施した。

| 関係部署                  | 広域交通インフラについて   |
|-----------------------|--|
| 都市計画・モノレール課、<br>交通政策課 | 令和7年10月15日（水）11:00～12:00   |
| 道路街路課                 | 令和8年1月16日（金）13:30～14:30  |
| 実施内容                  | 1. 昨年度広域構想骨子案の広域交通インフラ部分の見直し状況に対する意見<br>2. 昨年のヒアリング以降の広域交通インフラに関する関連事業の状況<br>・都市交通マスタープラン及び都市総合交通戦略の改定に向けた状況（第4回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査結果のとりまとめ状況、交通まちづくりの考え方、鉄軌道の検討状況等）<br>・次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）から反映したほうがよい内容<br>・その他 等 |

| 関係部署  | 広域的公園・緑地について   |
|-------|--|
| 都市公園課 | 令和7年10月15日（水）10:00～11:00   |
| 実施内容  | 1. 広域構想における公園・緑地面積の規模<br>・「公園・緑地の規模の方針」における「地区の20%以上の公園・緑地を配置する」旨の位置付けについて、20%の妥当性や関係市町村の懸念への対応に関する意見聴取<br>2. 広域的な視点から、各跡地利用に対する要望や留意点に関する意見<br>・広域緑地計画を踏まえた広域的なみどり構造の視点から、各跡地利用に対する要望や留意点等に関する意見聴取<br>3. 新たに位置付けた「公園・緑地の定義」に対する意見<br>・民間施設緑地（公開空地等）や緑被に関わらないオープンスペース（防災広場やグラウンドも含むイメージ）を公園・緑地として定義する案に対する意見聴取<br>・公園・緑地面積を確保するための方策や考え方に関する意見聴取 |

#### 2. 関連計画の把握・整理

##### (1) 都市交通マスタープラン（素案）の反映事項

令和7年12月に「都市交通マスタープラン（素案）」が公表されパブリックコメントが実施された。「都市交通マスタープラン（素案）」では、都市・交通基盤整備の方向性として、「基地返還を見据えた都市構造」の考え方が示されている。

##### (2) 各駐留軍用地跡地の整備基本方針の更新に向けた関連計画の状況

各市町村に跡地利用等の関連計画（交通インフラ、緑地、拠点整備等）を確認し、検討状況等を確認した。

### 3. 関係6市町村への個別確認

関係市町村の跡地利用の検討状況と課題、関係市町村へヒアリング調査を実施した。

#### (1) 開催概要

| 市町村  | 日時   |
|------|--|
| 那覇市  | 令和7年10月20日(月) 15:30~16:30  |
| 浦添市  | 令和7年10月16日(木) 13:30~14:30  |
| 宜野湾市 | 令和7年10月20日(月) 10:30~11:30  |
| 沖縄市  | 令和7年10月17日(金) 15:30~16:30  |
| 北谷町  | 令和7年10月20日(月) 13:30~14:30  |
| 北中城村 | 令和7年10月16日(木) 10:30~11:30  |
| 実施内容 | 1. 跡地利用の検討状況及び現況確認<br>2. 跡地利用に向けた課題<br>3. 各駐留軍用地跡地の整備基本方針の更新に向けた関連計画の状況確認<br>4. 広域構想改定骨子案(R6)の意見照会<br>5. その他(GW2050PROJECTSの状況について)<br>※那覇市、浦添市、宜野湾市のみ |

## IV. 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想(改定)策定検討委員会の補助

### 1. 協議会について

#### (1) 協議会及び委員会等の位置づけ・実施スケジュール

沖縄県では、「広域構想」の改定に向け、「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想検討協議会」を設置した。本協議会は、中南部都市圏における大規模な駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用により、沖縄県の自立的な発展及び潤いのある豊かな生活環境の創造を図るため、嘉手納飛行場より南の返還が予定されている駐留軍用地6施設について、広域的な観点から連携した跡地利用の方向性の検討を行い、「広域構想」の改定に向けた協議を行うことを目的とする。

協議会は、「本部協議会」、「委員会」、「幹事会」で組織し、幹事会及び委員会について令和8年に各3回程度、令和9年に各1回程度開催予定である。

### 2. 幹事会・委員会資料作成

第1回中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想検討委員会及び幹事会(令和8年度開催予定)のため、本委員会の目的・位置づけや、「広域構想」改定素案の内容と改定のポイントを示した資料を作成した。

## V. 戦後 80 周年祈念事業跡地利用県民フォーラム等

戦後 80 周年平和祈念事業として、嘉手納飛行場より南の区域を対象として「広域構想」及び各駐留軍用地の取組を広く県民等へ情報発信するため、県民フォーラム及び跡地利用パネル展の企画・運営を実施した。

### 1. 県民フォーラム

#### (1) 開催概要

|       |  |
|-------|--|
| タイトル  | 戦後 80 周年平和祈念事業 跡地利用県民フォーラム・パネル展  |
| テーマ   | 駐留軍用地跡地からひろがる沖縄の未来   |
| 日時    | 令和 7 年 11 月 15 日（土） 14 時 30 分～17 時   |
| 会場    | イオンモール沖縄ライカム 1 階グランドスクエア   |
| 参加方法  | 参加費無料・申込不要   |
| プログラム | ●第一部：高校生による公開ワークショップ<br>・ライブドローイング：林 匡宏氏（株式会社コモンズファン代表取締役）<br>・高校生 計 20 名（北谷高校、普天間高校、浦添高校）<br>●第二部：パネルディスカッション<br>・パネリスト：下地 芳郎氏（一般社団法人沖縄観光 DX 推進機構（OTDO）代表理事）<br>上江洲 純子氏（沖縄国際大学 法学部 地域行政学科 教授）<br>林 匡宏氏（株式会社コモンズファン代表取締役）<br>・全体進行：狩俣 日姫（株式会社さびら共同創業者） |

### 2. 跡地利用パネル展

#### (1) 開催概要

|       |   |
|-------|---|
| 日時    | 令和 7 年 11 月 15 日（土） 10 時～17 時   |
| 会場    | イオンモール沖縄ライカム 1 階グランドスクエア  |
| 展示パネル | ①広域構想（概要）パネル（計 2 枚）<br>②沖縄総合事務局借用パネル（計 16 枚）<br>③普天間飛行場パネル（計 7 枚）<br>④牧港補給地区パネル（計 2 枚） 計 27 枚 |

### 3. アンケート

#### (1) アンケート概要

回収数 : 36

回収方法 : アンケート用紙への記入、QR コード表示による Web 回答

| 設問  | 内容  |
|-----|---|
| 1～3 | 性別・年齢・居住地   |
| 4   | 返還が予定されている中南部都市圏の駐留軍用地について、跡地利用を考える取組がされていることを知っていましたか？ |
| 5   | 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？                                  |
| 6   | 来場のきっかけは何ですか？   |
| 7   | パネル展のご感想をお聞かせください。                                      |
| 8   | フォーラムの満足度をお聞かせください。                                     |
| 9   | その他ご意見・ご感想  |

#### 4. 今後の課題等

| 内容  |
|---|
| ・将来のまちづくりを担う若者である高校生のアイデア、意見に多くの関心が集まり、高校生を中心に据えたプログラムの効果が伺えた。                    |
| ・ワークショップ意見の実践が実現すれば、そこから跡地利用の取組の機運が徐々に高まり、将来のまちづくりや跡地利用につながっていくことも考えられる。          |
| ・アンケート結果では跡地利用に関する取組について肯定的な意見が多く見られていることから、今後も引き続き、県内外に向けて広く周知を図っていく必要があると考えられる。 |
| ・フォーラム等のイベントでは、情報発信だけでなく県民から広く意見聴取を行う機会として、引き続き、意見聴取方法について工夫をしていく必要がある。           |
| ・来場者が跡地利用を自分ごととして捉えやすい情報提供のあり方について、引き続き、検討していく必要がある                               |